

教科等研究会（小学校外国語部会）

令和4年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

外国語の見方・考え方を働かせながら
楽しくコミュニケーションを図ろうとする子どもの育成

2 研究経過

第1回			第2回			第3回			第4回		
期日 6/6	人数 25人	場所 小坂小	期日 8/5	場所 益城中 (オンライン)	小・中 合同研 修	期日 9/27	場所 広安小	授業者 中村成美 教諭 安田喜美 教諭	期日 1/26	場所 小坂小 (オンライン)	授業者 角田香織 教諭 寺園光湖 教諭

3 研究の概要

(1) 研究の内容

① 研究テーマと研究の視点の設定及び研究組織づくり（期日：令和4年6月6日 場所：小坂小）

ア 研究テーマと研究の視点の設定

今年度の研究テーマを「外国語の見方・考え方を働かせながら楽しくコミュニケーションを図ろうとする子どもの育成」と設定した。そして、研究テーマに掲げる子どもの姿を実現するための授業づくりの視点を設定し、授業実践を行うこととした。

<研究テーマに掲げる子どもの姿を目指すための授業づくりの視点>

- (1) コミュニケーションへの興味・関心や意欲を高める単元の学習課題の設定
- (2) 外国語に十分慣れ親しんだり、知識・技能を定着させたりする活動の充実
- (3) 言語活動の充実
- (4) 振り返りの充実

イ 研究組織づくり

今年度は、部会内に次のような部を設置した。会員全員がいずれかの部に所属することで、研修の運営に参画できるようにした。

- 研究部・・・研修内容の企画、事前研への参加、研修の運営等の研究推進に関わる。
※メンバーは希望者で構成する。（今年度は6人）
- 中学年部・・・外国語活動の研究授業、授業研究会を運営する。
※メンバーは主に3・4年の担任で構成する。
- 高学年部・・・外国語科の研究授業、授業研究会を運営する。
※メンバーは主に5・6年の担任で構成する。

② 小・中合同研修（期日：令和4年8月5日 場所：益城中学校（オンライン））

小学校外国語部会と中学校英語部会の合同研修を行った。研修会は、対面ではなく、Zoomを使用したオンライン研修を実施した。配信場所となった益城中学校に、「熊本の学びステップアップ研修」を活用して、熊本県教育庁義務教育課英語教育推進室の深見宏子指導主事、市原小百合指導主事、上益城教育事務所の福嶋亜矢指導主事を講師としてお招きした。そして、次の内容で講話をしていただいた。

- 1 「単元のゴールの姿」（単元終了時の児童生徒の姿）の実現に向けた単元デザイン
- 2 管内の小中連携の現状と CAN-DO リストの課題から
- 3 小中の学びをつなぐ CAN-DO リストの作成に向けて

また、講話後は、Zoomのブレイクアウトルームを使用して、中学校区ごとにグループを作って情報交換を実施した。

③ 外国語科の授業実践（期日：令和4年9月27日 場所：広安小学校）

第6学年「Summer Vacations in the World」の授業実践を行った。単元を通じた学習課題を、「他のクラスの友達に自分の夏休みの思い出を伝えるため、ポスターを作ってプレゼンテーションをしよう！」と設定した。研究授業では、「自分が夏休みにしたことについて詳しく説明するために、ペアでの発表を通して、感想を付け加え、内容を工夫して話すことができる児童の姿」を目指して授業を展開した。授業研究会では、授業の成果と課題を出し合い、改善策まで話し合った。会の最後には、益城中央小学校の原口順子指導教諭から指導・助言をいただいた。

④ 外国語活動の授業実践及び実践発表（期日：令和5年1月26日 場所：小坂小学校（オンライン））
 第3学年「This is for you?」の授業実践と実践発表を行った。当日は、新型コロナウイルス感染症等の拡大状況を考慮し、Zoomを使用したオンライン研修を実施した。授業実践については、事前に研究授業の動画を撮影しておき、Zoomで配信した。研究授業動画を視聴した後、Zoomの機能を活用して授業研究会を実施した。

第3学年の授業実践では、単元を通じた学習課題を「家族にありがとうの気持ちを伝えるため、Thank youカードを作り、友達に自分の作品を伝え合おう。」と設定した。研究授業では、「相手に伝わるように工夫しながら、欲しい形・色・数を尋ねたり答えたりして、自分の思いや考えを伝え合うことができる児童の姿」を目指して授業を展開した。実践発表では、小坂小学校の英語の教育課程特例校の取組についての発表を行った。

(2) 成果と課題（成果○ ▲課題）

- 研究テーマとともに授業づくりの視点を明確にしたことで、授業実践の際に、それらを意識した指導の工夫がなされていた。
- 講師を招いての講話や原口指導教諭の指導・助言から、授業づくりやCAN-DOリストの活用についての理論を学ぶことができた。
- 授業実践では、言語活動を中心とした授業展開がなされており、会員に多くの学びがあった。
- ▲ 対面型の研修とオンライン型の研修のそれぞれの長所を生かした研修計画を作成し、研修をさらに充実させたい。

4 実践事例（期日：令和4年9月27日 場所：益城町立広安小学校）

(1) 授業の概要（授業者 中村 成美 教諭（広安小） 安田 希美 教諭（広安西小）

第6学年「Summer Vacations in the World」の授業実践では、単元を通じた学習課題を、「他のクラスの友達に自分の夏休みの思い出を伝えるため、ポスターを作ってプレゼンテーションをしよう！」と設定した。本単元では、「I went to ～, I enjoyed ～, I ate ～, It was ～等」の表現を使って、自分の夏休みの思い出について相手に伝わるように工夫しながら表現する児童の姿を目指した。

研究授業では、自分が夏休みにしたことについて詳しく説明するために、感想を付け加えるなどの工夫をしながら、ペアでのやり取りを楽しむ児童の姿が見られた。



(2) 学習構想案

① 単元構想

単元名	「Summer Vacations in the World」 (東京書籍「NEW HORIZOZN Elementary」 p34～41)
単元の目標	(1) 自分の夏休みの思い出について話したり、例文を参考にして書いたりすることができる。[知識及び技能] (2) 自分の夏休みの思い出を詳しく分かってもらうために、相手に伝わる工夫をしながら話することができる。[思考力、判断力、表現力等] (3) 自分の夏休みの思い出について、相手に伝わる工夫を考えながら、自分の思い出を知ってもらうために、自分のことを話そうとしている。「学びに向かう力、人間性等」

単元終了時の児童の姿（単元のゴールの姿・期待される姿）
友達に自分のことを伝えるために、夏休みの思い出について、簡単な語句や基本的な表現を使って、相手に伝わるように工夫して話している児童。

単元を通した学習課題		本単元で働かせる見方・考え方	
他のクラスの友達に自分の夏休みの思い出を伝えるため、ポスターを作ってプレゼンテーションをしよう！		既習の表現や、過去の言い方などを使って、自分の夏休みの思い出を、何とかして相手に伝えられるように工夫すること。	
指導計画と評価計画（9時間取扱い 本時6 / 9）			
単元	時間	学習活動	評価の観点等 ★は記録に残す評価の場面で「具体的評価規準」
一	2	○単元の流れを作成する。 ○ALT のモデルを聞き、夏休みの思い出を伝える表現を知り、会話のおおよその内容を理解する。 [went, stayed, ate, saw, enjoyed]	
二	3	○夏休みに行った場所や、家に滞在していたことの表現を知り、伝え合う。[I went to~, I stayed at home.] ○夏休みに食べたものや見たもの、楽しんだことの表現を知り、紹介する。[I ate~, I saw~, I enjoyed~]	「話すこと〔発表〕」(ウ) 【知・技】(行動観察, 振り返りシート)
三	3	○夏休みの感想の表現を知り、自分が言いたいことが伝わるようにするため、友達とやり取りをしながら表現を工夫して話す。[It was fun.等] 【本時】 ○夏休みの思い出をポスターにまとめる。 ○自分たちの夏休みの思い出を紹介する。(他クラスとの合同発表会)	「話すこと〔発表〕」(ウ) 【思・判・表】(行動観察) 「書くこと」(ウ) ★【知識】 ★【技能】 「書くこと」(ウ) ★【思・判・表】 「書くこと」(ウ) ★【態】 「話すこと〔発表〕」(ウ) ★【知・技】 「話すこと〔発表〕」(ウ) ★【思・判・表】(行動観察) 「話すこと〔発表〕」(ウ) ★【態】(行動観察, 振り返りシート)

② 授業づくりの視点についての取組

授業づくりの視点についての取組
①コミュニケーションへの興味・関心や意欲を高める単元の学習課題の設定 <ul style="list-style-type: none"> ・「隣の学級の友達に自分の夏休みの思い出を伝えるため、ポスターを作ってプレゼンテーションをしよう！」という単元のゴールを設定し、夏休みの思い出をポスターにまとめたものについて隣の学級と合同発表会をすることで、相手意識、学習に対する意欲と見通しを持たせる。 ・T1 のモデル発表について、相手に詳しく伝えるための工夫を一緒に考える場を設けることで、相手に自分のことを知ってもらうための発表内容の工夫が必要であることが分かるようにする。
②外国語に十分慣れ親しんだり、知識・技能を定着させたりする活動の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・益城町の共通教材「動詞句チャンツ」を活用し、自分がしたことを言うときに活用できるようにする。 ・アルファベットチャンツや並び替えクイズを繰り返すことで、聞きなれた・言いなれた単語や表現について音声と文字を結びつけて書くことができるようにする。
③言語活動の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・授業や学級活動の時間に small talk を行い、既習の表現を用いて話したり、質問したり、反応したりすることを日常的に繰り返すことで、自分の話したいことを伝えることへの意欲が高まるようにする。 ・既習の表現を教室掲示し、授業の中で、児童が伝えたいことに合わせて表現を自分で選択し、対話や発表に活用できるようにする。
④振り返りの充実 <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りカードを活用し、学級で考えた単元のゴールに到達するために必要な活動について、毎時間ごとに自分の課題や成長を自覚し、友達と共有できるようにする。

③ 本時の学習

ア 目標

自分が夏休みにしたことについて詳しく説明するために、ペアでの発表を通して、感想を付け加え、内容を工夫して話すことができる。

イ 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される児童の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図、内容、方法等)
導入	10分	<p>1 前時までの学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。 ・動詞句 ・Chant ・Let's sing ◇もう少し付け足したい！</p> <p>2 T1のデモンストレーションを聞き、夏休みの思い出がALTによく伝わるように、工夫できることがないか考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>Hello. My name is Narumi. I went to Oshima. I ate fish. I saw 「夢の小夜鳥」. Thank you for listening.</p> </div> <p>3 T1が工夫したモデルを聞き、本時の活動への見通しをもつ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【めあて】自分の夏休みの思い出がみんなによく伝わるように、内容を工夫して話そう。</p> </div>	<p>○カードやリズムに合わせてテンポよく発話するよう促す。</p> <p>○毎時間のSmall talkや、学級活動の時間を活用し、知りたいことを尋ねるための疑問詞を使った表現等を想起できるようにする。</p> <p>○T1のデモンストレーションの前に、児童が考えている文章を一度セルフトークで言わせることで、自分の内容とT1の内容を比べて考えられるようにする。</p> <p>○T1が「何か足りない気がする。」と言ってALTに夏休みの思い出を伝え、「あと少し聞きたい」と答えてもらうことで、自分の発表にも詳しくしたり工夫したりできるところがあることを見通すことができるようにする。</p> <p>○二度目のT1のモデルに、「It's ~.」と児童が付け足した時に、went, ate等を想起させ、感想も過去の</p>
展開	30分	<p>4 「It was～」の表現に慣れる ・Chant</p> <p>5 Activity1 工夫できることを出し合う ①自分の発表内容で、「It was～」やその他の工夫をどこに入れるか決めて練習する。 ②ペアで発表し、自分で考えたこと以外にも工夫できることがないかアドバイスし合う。 ③アドバイスされたことを踏まえて、もう一度自分で練習する。</p> <p>6 Activity2 チャレンジタイム ①列ごとに席を替わっていき、対話する(新しい相手1~2人と)。 ②友達のいいところを全体で共有する。</p> <p>7 Activity3 Big Challenge Time 児童数名が、全体に向けて発表をする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【期待される学びの姿】 夏休みの思い出を相手に分かりやすく伝えるために、「It was～」の表現、友達から学んだ表現を使い、さらに工夫して伝え合おうとしてい</p> </div>	<p>○「It was～」の表現を繰り返し練習し、今回は、児童が考えている内容に「It was～」を付け足すだけで工夫ができるという安心感を持たせる。</p> <p>○活動で分からなかった英語表現などを共有し、全体で考えたりALTに尋ねたりしながら解決することで、次の活動への意欲を高める。</p> <p>○「内容の工夫」とは何か、「It was～」の他にも、これまでの学習で見つけた友達のよいところを想起させ、自分の発表の工夫の手がかりとなるようにする。</p> <p>○中間評価を行い、伝える工夫をしている児童のよいところや、困っている児童の思いを全体で共有する。</p> <p>○相手が異なるペアでのやり取りを複数回体験させ、発表への意欲を持たせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【具体的評価規準】 【話すこと(発表)】(ウ) 思 夏休みの思い出について、基本的な表現や、友達と対話をして気付いた表現の工夫を用いて話している。(行動観察、振り返りカード)</p> </div> <p>【到達していない児童への手立て】 ○個別に対話をし、友達にアドバイスされたことや、自分がより詳しく伝えたいことを整理しながら、基本の表現に加えて、一つ工夫を付け足すことができるようにする。</p>
終末	5分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◇It was～を使って詳しくすることができた。 ◇友達にアドバイスをもらって、工夫が考えられた。 ◇もっと練習して、他のクラスのみんなに伝えたい。</p> </div>	<p>○できるようになったこと、やり取りをして気付いたことや大切だと思ったことについて振り返り、発表し合うことで学びを共有する。</p> <p>○児童の気づきを認め、分かりやすく伝えるために工夫や練習をしたい等、発表に向けて意欲が高まるようにする。</p>